

上海レポート

令和5年3月号

Vol. 31



公益財団法人 大阪産業局上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20230306 号	「逆光 226」-光のある世界へ	所長助理	徐 潔
20230313 号	週末小旅行その2 揚州	所 長	南浦秀史
20230320 号	中国医療市場の変化とチャンス	副 所 長	小森亮人
20230327 号	コーヒーを愛する都市、上海	秘 書	孫 芸

「逆光 226」-光のある世界へ

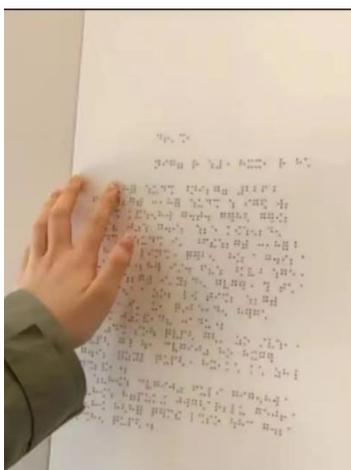
大都市・上海で何気なく生活していると、福祉分野に目がいけない事が多いようです。障がいを抱えている方はあまり表で見受けられず、せいぜい盲人按摩(マッサージ)の店舗で見かける程度です。そのような福祉分野に切り込んだのが「逆光 226(新華書店)」です。

上海市南昌路に歩道から店内まで点字ブロックが伸びている書店があります。店内には点字図書や電子読書器、障がいがある方々の手による絵画や雑貨が陳列・配置され、盲導犬の入店も可能です。この障がい者にやさしい「逆光 226」は昨年末のオープン以来 2800 人程の読者が訪れ、多くの方々から高い評価が寄せられています。

この書店の名誉店長である韓英さんも視覚障がい者で、彼女は教育大学を優秀な成績で卒業し教員となりました。しかしその後、目の難病を患い失明しました。それでも彼女は勉強をあきらめずに前進を続けました。そうして「逆光 226」の名誉店長になったのです……

「逆光 226」という店名には 2 つの意味があります。1 つは南昌路 226 号にある事、もう 1 つはこの書店が障がいがある方と店を訪れる方が交わり、お互いに光を投げかける空間であるという意味です。障がいがある方々はこの書店を通じて、自分達の手による商品・作品を多くの方に知ってもらうことができます。そして、書店を訪れる方々は店内の品々に触れ、障がいがある方々の表現力や創造性を知ることができます。

この小さな本屋は、障がいのある方と訪れる方のそれぞれに新たな機会と気づきをもたらす場として、社会に生きる様々な人に勇気と希望を与えています。



週末小旅行その2 揚州

週末小旅行第2弾は、関西と縁が深い江蘇省の揚州に日帰りで行ってきました。上海から高速鉄道で西へ約2時間、揚子江の北側に揚州市があります。揚州市は奈良市と友好都市です。

揚州といってまず思い浮かべるのが、揚州炒飯でしょう。中華料理は青椒肉絲(チンジャオロース)や麻婆豆腐(マーボードーフ)のように4文字で表現されることが多く、中国で日本人に馴染みのある卵の入った五目炒飯を食べようと思ったら、揚州炒飯(ヤンジョウチャオファン)を注文すればまず間違いありません。

揚州は歴史が古く、紀元前106年に漢が設置した13州のひとつに数えられており、当時の記録で人口は400万人以上いたそうです。市内に北京と杭州を結ぶ京杭大運河が通っており、古くから交通の要所として栄えました。マルコ・ポーロが訪れたことがあるとも言われています。また、清の時代に商売で財をなした人が造園した素晴らしい庭園が残っていて、世界遺産に指定されています。

揚州は、日本の仏教にとっても非常に重要なところなんです。というのも、市内にある大明寺は、鑑真和上が日本に渡る前に住職を勤めていた寺だからです。日本の遣唐使から正しい仏教の戒律を伝えるために高僧の派遣依頼を受けたものの、弟子に渡日を問いかけても応じるものがいなかったため、和上自ら5回の失敗と失明するという苦難の末に日本に渡り、仏教の戒律を伝え、そして、日本で亡くなりました。大明寺には奈良の唐招提寺にある国宝鑑真和上像の複製が祀られています。

大阪府は江蘇省と1980年より交流を深めてきました。省内各地には歴史が古く趣のあるところがたくさんありますので、今後もこの場で紹介していこうと思います。



中国医療市場の変化とチャンス

昨年末のゼロコロナ政策の緩和以降、中国国内では様々な展示会、見本市が再開されています。先日上海市に隣接する浙江省にて第35回国際科学研究・医療機器設備技術交流展覧会が開催され、事務所より視察に行きました。

リアル形式での開催となった本展覧会では、浙江省を中心に中国各地からバイヤーが来場し、各ブースで活発な商談が行われていました。出展企業には日本、欧米企業も見られるものの、中国企業からの出展が大多数を占め、展示内容も入院用のベッドからMRI装置まで幅広く、中国国内で企業・技術共に集積が進んでいることが見受けられます。

一方で本展覧会では外国企業の知見の導入や技術交流も積極的に志向されており、会場内では外国企業と中国企業との交流・マッチングを目的としたフォーラムも開催されていました。フォーラム内では韓国やイギリスなど様々な国の企業よ

り、自社の技術、製品のプレゼンが行われていましたが、高齢者の遠隔介護サービスや睡眠環境を改善する機器など、福祉や生活の質の向上に関する発表について中国側から大きな反応が出ていたことが印象的でした。

2022年の中国の平均寿命は78歳に達し、高齢化社会に伴う福祉分野への関心が高まっているほか、コロナの影響で自宅で過ごす時間が増えたことで日常生活における快適さを追求するニーズも大きくなっています。これらは中国において今後の開拓が期待される分野であり、知見の集積が先行している日本や欧米の外国企業にとっても新たなビジネスチャンスとなるのかもしれませんが、大きな変化を迎えつつある中国医療市場を、今後も注目していきたいと思います。



コーヒーを愛する都市、上海

「お茶の国」のイメージが強い中国で、近年はコーヒーがブームとなっています。上海市が発表した2021年の「上海コーヒー消費指数」によると、同市内のカフェ店舗数は6913軒にのぼり、世界で最もカフェが多い都市となりました。上海事務所から徒歩10分以内には6軒のカフェがあります。1日1軒、1週間繰返さずに飲み続けていきます。

上海のカフェの注文量をオンライン注文で見ると、コーヒーの注文は主にビジネス地区に集中しており、取引量の多い上位3つのビジネスエリアは、静安寺、虹橋、淮海路・陝西南路となりました。

海外のコーヒーブランドも中国市場に注目しています。世界でスターバックスが最も多い都市は上海で、店舗数は900店を超えています。そして世界最大かつアジア初の「スターバックス・リザーブ・ロースタリー」も上海の南京西路にあります。

スタバより高い「高級路線」で進出した堀口珈琲は上海の観光地・外灘に出店しました。イギリス租界時代の歴史的建築物で営業しています。焙煎コーヒーの価格は98元(約1960円)。そう、それは一杯の値段です。ネルドリップのお手入れの値段です。最もおいしいと言われている店で人気の入れ方です。

また上海の旧フランス租界エリアにある自家焙煎コーヒー店「RUMORS COFFEE」は、日本人のご主人が中国人の奥さんと切り盛りしています。2011年に店を構えたご主人は日本と中国でカフェに求められるものの違いを語りました。「日本と中国は生活スタイルが違う。例えば、中国では日本のように駅近くのカフェで、ビジネスパーソンが集まって商談の場になったりしている訳でもありません。」

中国では1990年以降生まれの世代を中心に、従来のコーヒーの楽しみ方とは異なる飲み方が見られるとも言われています。中国のコーヒー業界の今後の発展が楽しみです。



上海2021年咖啡交易额TOP商圈

城市	商圈名称	交易额排名
上海市	静安寺	NO.1
上海市	虹桥镇	NO.2
上海市	淮海路/陝西南路	NO.3
上海市	五角场/大学区	NO.4
上海市	中山公园/江苏路	NO.5
上海市	人民广场/南京路	NO.6
上海市	陆家嘴	NO.7
上海市	南京西路	NO.8
上海市	音乐学院/五官科医院	NO.9
上海市	德家汇	NO.10

